

令和元年度事業報告書(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

新型コロナウイルスの感染拡大に備える改正特別措置法に基づき、4月16日には全国へ緊急事態宣言が発出されました。ウイルスの収束までには更に時間を要すると見込まれる中、財団活動への影響も避けられない事態となってきました。事業型公益法人の中には事業収入に多大なマイナスが生じ、純資産の大幅な減少から解散が目前に迫っている財団も出てきているようです。ただし骨粗鬆症財団においては、『連携と共創』というテーマのもと、令和元年度の事業計画を無事遂行し、寄附金等の獲得と経費節減により、正味財産を大きく減少させることを食い止めることが出来ました。

現在、わが国では最重要課題のひとつである「健康寿命の延伸」を目標に、官民間問わず、また地域や職域を越えて様々な取り組みが実施されています。特に疾患の普及啓発分野に携わる公益法人・NPO法人等においては、国民へ直接働きかけるのみならず、指導者・教育者の養成と彼らが活躍できる場の確保という方策が大きくなってきています。

骨粗鬆症財団でもこうした状況に対応し、一般の方々に向けて世界骨粗鬆症デー・イベントや骨量測定体験会を実施する一方、「骨粗しょう症連携手帳」や「カノープス」の配布を通じて健康サポート薬局や骨粗鬆症マネージャーといった医療従事者との連携を図る取り組みを行っており、これらは新たなルートの開拓や啓発ターゲットの獲得に大きな役割を果たしています。

ただ、特に今回のような困難な時期においては、より一層、正しい情報を提供することが公益法人に求められており、骨粗鬆症財団としては今後、情報発信力の更なる強化を図る必要があると考えています。

【公益目的事業】

(1) 普及・啓発事業

イ) 骨粗鬆症に関する資材・資料の作成と配布

＜既存資材＞

- ・リーフレット 7種(配布部数 90,508部)／小冊子 2種(9,855部)／ポスター 2種(66部)
- ・「骨粗しょう症連携手帳」 →後述
- ・骨粗鬆症情報紙「カノープス」 →後述

＜新規作成＞

①ポスター 2種

- ・世界骨粗鬆症デーポスター(2019年9月 9,230部配布)  
復刻版「あなたが骨まで愛してるって言ってくれたから・・・」(日本骨粗鬆症学会と連名)
- ・骨量測定推進ポスター(2019年10月 9,508部配布)  
「そのあなた！骨そしょう症予備群かも！」 ※日本宝くじ協会助成金にて制作  
監修: 林 泰史先生(原宿リハビリテーション病院)

②治療継続啓発リーフレット 5万5,000部配布(2020年3月現在)

- 「骨粗鬆症は、ほっとけない」(監修: 細井孝之先生)
- 「骨粗鬆症の治療をしています」(監修: 三浦雅一先生)

ロ) ホームページ、Facebook等での情報発信

- ・ホームページアクセス数(ページビュー: Webページが閲覧された回数)の推移  
2018年: 91,676/月  
2019年: 106,750 /月
- ・「病医院リスト」登録数 1,992件(2020年3月31日現在)
- ・トップページへのバナー広告掲載で運営費の確保(12社)

ハ) 広報誌等による情報発信

① 財団ニュースの発行(メール配信)

No. 35(12月) (主な内容)「世界骨粗鬆症デーのイベントを金沢、松本で開催しました」

② 骨粗鬆症情報紙「カノーパス」(eメールによる無料配信、奇数月20日発行)

2019年度 No.9~No.14までの6号を制作・配信

配信状況: 新規申し込み 103件/累計 782件(2020年3月31日現在)

骨を守る会を通じた配布 3,280部

財団個人賛助会員・寄附者へ配布

骨粗鬆症川柳投稿者に対し、カノーパス写真付きQUOカード贈呈(5名)

編集会議の開催(1回:2019年9月8日)

③ 『Osteoporosis Japan PLUS』(ライフサイエンス出版)の編集協力

内容の監修、記事投稿、案内チラシによる本誌の紹介

(2020年春号より「OPJリエゾン」に名称変更)

ニ) 『骨粗しょう症連携手帳』制作と配布

2019年度 申し込み:260件 16,312冊/累計 655施設・50,926冊(2020年3月31日現在)

製薬会社(旭化成ファーマ、中外製薬)から約33,000冊を配布(2019年12月調べ)

ホ) 世界骨粗鬆症デー・キャンペーン(WOD)

1. ポスターを作成・配布

配布時期: 2019年9月

配布箇所(ヶ所): 自治体 1,786/病院・薬局 2,624/関連団体・会員等 205 合計4,615ヶ所

2. イベント

① 「世界骨粗鬆症デー in 金沢 2019」(金沢骨を守る会との共催)

後援: 石川県、金沢市、石川県医師会、北國新聞社、北陸放送 他

特別協賛: 日本イーライリリー

協賛: 旭化成ファーマ、エーザイ、森永乳業、ライフサイエンス出版

・イベント

2019年10月20日(日)(金沢フォーラス メインエントランスコート)

骨量測定体験会 11時~16時/健康と薬の相談 13時~16時

・広報

タペストリー掲示 金沢駅東広場もてなしドーム(9月30日~20日)

北國新聞TV番組取材、朝刊掲載(10月21日)

② 「世界骨粗鬆症デー in 松本 2019」(松本市、一般財団法人松本ヘルス・ラボと共催)

・イベント

「あなたの骨をチェック! 骨密度測定体験会 in おとぎ祭」(松本短期大学)

2019年10月19日(土) 10時~16時/10月20日(日) 10時~14時

骨量測定体験会(イオンモール松本 かがやきコート)

10月17日(水) 10時30分~16時30分

世界健康首都会議 セミナー「最新の骨折予防対策」(松本市中央公民館 Mウイング)

10月17日(木) 10時~10時50分 講師: 中村幸男先生(信州大学)

- ・ブース展示: 骨粗鬆症財団の紹介(松本ヘルス・ラボブース)  
10月16日(水)、17日(木)

・広報

- 国宝松本城ブルーライトアップ(10月20日(日) 日没~22時)  
「アルプちゃん」(松本市キャラクター)とWOD資料配布(10月15日(火) 7時30分~8時 松本駅前)

へ) 骨量測定拡大キャンペーン

- ・QUSによる骨量測定体験会の実施  
超音波骨密度測定装置(日立製作所製AOS-100SA/データ管理ソフト)使用  
実施: 44回 28ヶ所(昨年度 19ヶ所)  
測定者: 3,432名(昨年度 2,397名)
- ・体験会会場用 展示ブースアイテムの制作(パネル、テーブルカバー、ノベルティ)
- ・リーフレット「骨量測定結果の見方」改訂

ト) 地域骨を守る会の支援・連携

- ・各骨を守る会に助成金を支給(一律+申請)
- ・第21回日本骨粗鬆症学会 会場(神戸国際会議場、2019年10月11~13日)にてブース開設  
骨を守る会(国内14地区)のポスター及び財団紹介を展示、関連資料を配布
- ・札幌骨を守る会(8/17)、東京骨を守る会(12/8)、名古屋骨を守る会(2/16)における骨量測定体験会への協力

チ) 精度よくDXAで骨量測定するためのeラーニング

- 2019年度視聴申込: 136名  
(2017年3月開始より視聴者累計913名: 医師19%、放射線技師65%、その他17%)  
講師: 福永仁夫先生、曾根照喜先生、友光達志先生

リ) 電話、E-mail、ホームページから寄せられる相談・質問等への対応

- 質問・相談 198件(昨年度 216件)  
資料請求(WOD除く) 362件(昨年度 518件)

又) その他

① 記事監修・資料提供

- ・TOKYO MXテレビ「バラいろダンディ」健康コーナー「くしゃみで骨折!? 骨粗しょう症」
- ・東海テレビ放送「スイッチ!」松本伊代の健康ジャーニー「カラダにい~よ! 骨粗鬆症」
- ・JA広島総合病院「さいきちゅうおう」No.540 健康チェック「骨粗しょう症予防」
- ・第一学習社 高校教科書「家庭総合」「家庭基礎」
- ・島根県立大学 教材「骨の健康チェック」等 13件

② 資料監修・企画

- ・絵本「いつまでも元気」(中外製薬)
- ・小冊子「知って得する骨粗鬆症」「止めよう! ドミノ骨折」(旭化成ファーマ)

③ 講演会講師

- ・訪問看護師が対象の啓発講演(ニチイ学館主催)「あなたの骨は大丈夫?」(参加者20名)

(2) 研究助成事業

イ) 平成30年度助成金をまとめ、『研究助成報告集』を作成、執筆者及び関係団体へ配布

- ・第26回財団研究助成報告書 6題(指定課題 1/一般課題 5)
- ・第14回リリー研究助成プログラム報告書 10題
- ・第11回旭化成研究助成プログラム報告書 8題

ロ) 令和元年度分として次の2助成に対する交付を行った。

(1) 第27回(令和元年度)財団研究助成の交付(研究期間:平成31年4月～令和2年3月)  
募集と選考は平成30年度に実施(選考委員会:平成31年1月21日(月)開催)。

選考委員:(選考当時、敬称略)

- 井上大輔(帝京ちば総合医療センター 第三内科)
- 岩本 潤(慶友整形外科病院 慶友骨関節疾患センター)
- 竹田 秀(せいせき内科)
- 寺内公一(東京医科歯科大学 女性健康医学講座)

【指定課題】 助成金額:1件あたり100万円 応募者数 8題

	課 題	所 属	氏 名
1	大腿骨近位部骨折における生活習慣病の関与と骨代謝の関連性	兵庫県立淡路医療センター — 整形外科	岩倉 崇
2	バーコードリーダーと QR コードを利用した骨粗鬆症検診データベース作成の試み —パイロットスタディー—	亀田総合病院 脊椎脊髄外科	久保田 基夫

【一般課題】 助成金額:1件あたり60万円 応募者数 17題

	課 題	所 属	氏 名
1	Liposomal-Wnt3a を用いた歯槽骨治癒促進による骨粗鬆患者の咀嚼機能回復	九州大学大学院医学研究院 臨床薬理学分野	有岡 将基
2	長鎖ノンコーディング RNA による骨芽細胞分化・増殖調節機構の解明	東京医科歯科大学 整形外科	猪瀬 弘之
3	若年女性アスリートにおける低エストロゲン性無月経が骨の微細構造に与える影響に関する検討	長崎大学 産婦人科	北島 百合子
4	糖尿病性骨粗鬆症における組織因子の役割の解明	近畿大学医学部 再生機能医学教室	高藤 義正
5	アルデヒド脱水素酵素 2(ALDH2)遺伝子多型が PTH 製剤の骨密度上昇効果に与える影響	産業医科大学 整形外科	田島 貴文

(敬称略・氏名50音順)

(2) 財団研究助成(アステラス・アムジェン・バイオファーマ協賛)(研究期間: 令和2年1月～令和2年12月)

- ・募集テーマ: 骨粗鬆症に関する臨床研究
- ・募集期間: 令和元年8月1日～8月31日
- ・選考委員会: 令和元年10月18日(金)
- ・選考委員:(選考当時、敬称略)
  - 林 泰史(原宿リハビリテーション病院)
  - 寺内公一(東京医科歯科大学 女性健康医学講座)
  - 石島旨章(順天堂大学大学院医学研究科 整形外科・運動器医学講座)
  - 小川純人(東京大学大学院医学系研究科 加齢医学講座 老年病学)

助成金額: 1件あたり50～100万円 応募者数 27題

	課 題	所 属	氏 名
1	住民検診による骨粗鬆症、脊椎矢状面アライメントが運動機能に及ぼす影響	名古屋大学大学院医学系研究科 整形外科	安藤 圭
2	橈骨遠位端部の初回骨折受傷リスク予測における前腕DXA の有用性の検討 一 本邦における橈骨遠位端骨折のリスク基準値の確立を目指して一	大阪大学大学院医学系研究科 運動器再生医学共同研究講座	蛭名 耕介
3	脆弱性骨折(股関節・手関節)術後の骨粗鬆症治療薬使用実態と二次骨折発生に関する研究	東京大学医科学研究所附属病院 関節外科	大野 久美子
4	MRI による非侵襲的灌流画像を用いた骨粗鬆性椎体骨折後の予後不良因子の発生予測に関する研究	札幌医科大学医学部 整形外科学講座	高島 弘幸
5	コホート研究を基盤とした切迫骨折に対する最適な薬物治療の探索的研究	北海道大学病院 整形外科	高橋 大介
6	無菌性炎症に伴う骨の異常と骨粗鬆症に関する研究	東京大学大学院医学系研究科 免疫学	高柳 広
7	ナショナルデータベースを用いた各種糖尿病治療薬の骨折リスクの実態解明と骨粗鬆症治療薬の効果検討	大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学 I・II	玉置 淳子
8	乳癌患者におけるアロマターゼ阻害剤による骨減少の病態解明:HR-pQCT による骨微細構造解析	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 整形外科	千葉 恒
9	炎症性腸疾患患者における天然型ビタミン D 製剤が骨代謝に及ぼす影響についての検討	東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科	中島 章雄
10	一般住民における転倒・骨折リスクに関連する疾患および薬剤の検討	島根大学医学部 臨床検査医学講座	矢野 彰三

(敬称略・氏名50音順)

### (3) 調査・研究事業

#### イ) 大腿骨近位部骨折患者全国調査(岩手医科大学へ委託研究)

研究担当者: 衛生学公衆衛生学講座 田鎖愛理先生/坂田清美先生

##### 【学会発表】

第21回日本骨粗鬆症学会 一般演題(神戸市、2019年10月13日 骨粗鬆症疫学セッション)  
「大腿骨近位部骨折発生率全国調査 - 2017年における新発生患者数の推定と30年間の推移 - 粗O517」を報告

##### 【論文投稿】

Osteoporosis International誌へ投稿(2020年4月23日申請受理)  
「Hip Fracture Incidence Decline among Women in Japan: Estimates Based on Nationwide Hip Fracture Surveys from 1987 to 2017」

#### ロ) A-TOPデータの再利用研究: 高齢者における骨粗鬆症の病態の多様性について

Joint-02とJoint-03試験のデータを利用したエビデンスの構築: 各年齢階層別のベースラインデータの比較及び新規椎体骨折に与えるリスク因子の検討

##### 【学会発表】

第21回日本骨粗鬆症学会 一般演題(神戸市、2019年10月 医療費・データベースセッション)  
「各年齢における骨粗鬆症患者の新規骨折発生に影響する因子 - A-TOP研究登録の患者データを活用した解析(第2報) - 粗O185」を報告

##### 【報告書作成】

第20回(平成30年)日本骨粗鬆症学会で報告した内容を含めて総括し、調査・研究報告を作成。試験開始後の新規骨折に影響を与える因子についてデータ解析を実施中(上村夕香理氏/国立国際医療研究センター 臨床研究センター)、令和2年度に論文化の予定

#### ハ) 骨粗鬆症検診データ創出作業(業務委託)

国勢調査人口等基本集計(総務省統計局)資料を用いて、都道府県別の骨粗鬆症検診率を算定する方法をマニュアル化(算出方法、図表化・スライド作成方法の手引き作成)

### (4) 情報交換&ロビー活動等

#### イ) IOF

・WCO-IOF-ESCEO 2019(フランス・パリ、2019年4月4~7日)

#### ロ) 日本骨粗鬆症学会

・「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」改訂準備会議(2019年5月26日)  
折茂理事長、中村副理事長参加

#### ハ) 厚生労働省健康局

・全国の骨粗鬆症検診受診率算出依頼に対応(2016、2017年分)

##### 【収益事業等】

#### イ) 著作権関連事業

「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」等からの転載許諾対応

以上